2027年3月期
第2四半期決算説明会資料

2026年11月5日

クオールホールディングス株式会社

東証プライム：証券コード 3034（The Prime Market of the Tokyo Stock Exchange 3034）

2027年3月期　第2四半期決算概況

連結業績

- 製薬事業は新製品発売と原価低減により増収増益となり、連結業績に着実に寄与
- 薬局事業においても、処方箋単価の上昇により売上高の伸長を下支え

薬局事業

増収減益

- 地域支援・医薬品供給対応体制加算等の取得が進み、処方箋単価が上昇したことや介護保険売上が増加したことで売上高は微増
- 一方で、処方期間の長期化や自然災害等により受付回数が減少

BPO※1事業

増収増益

- CSO事業※2において、派遣MR活用ニーズは依然として堅調に推移しており、派遣数が増加

製薬事業

増収増益

- 2026年3月期に発売した2成分5品目及び当中間連結会計期間に発売した2成分3品目が大きく寄与し、既存品の原価低減も実現

※1　BPO：Business Process Outsourcing　　※2　CSO事業：コントラクトMR派遣事業

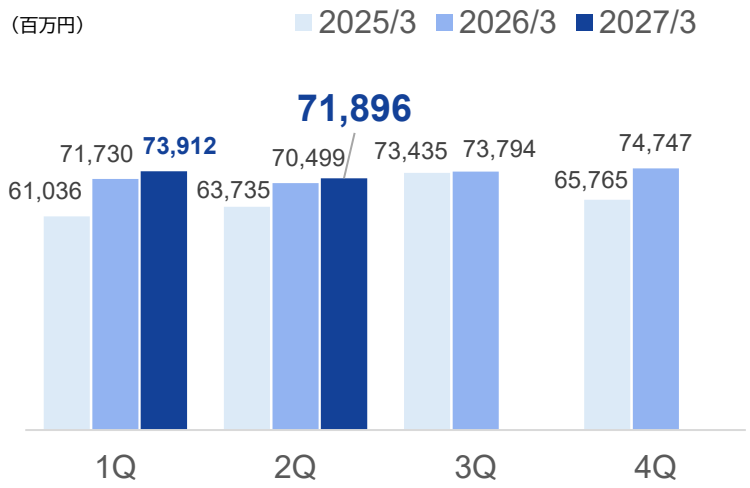
Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

連結業績ハイライト

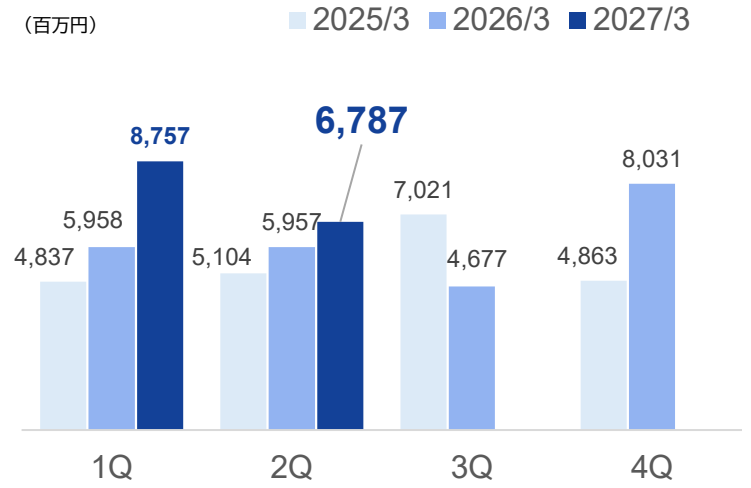
（単位：百万円）	2025年3月期 第2四半期 実績	2026年3月期 第2四半期 実績	2027年3月期 第2四半期 実績	増減額	増減率（%）
売上高	124,771	142,230	145,808	3,577	2.5%
EBITDA※	9,941	11,916	15,544	3,628	30.4%
営業利益	6,096	7,182	10,369	3,186	44.4%
経常利益	6,220	7,257	10,353	3,096	42.7%
親会社株主に帰属する中間純利益	1,211	3,547	4,675	1,127	31.8%
1株当たり中間純利益（円）	32.43	94.51	125.54	31.03	32.8%

※営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

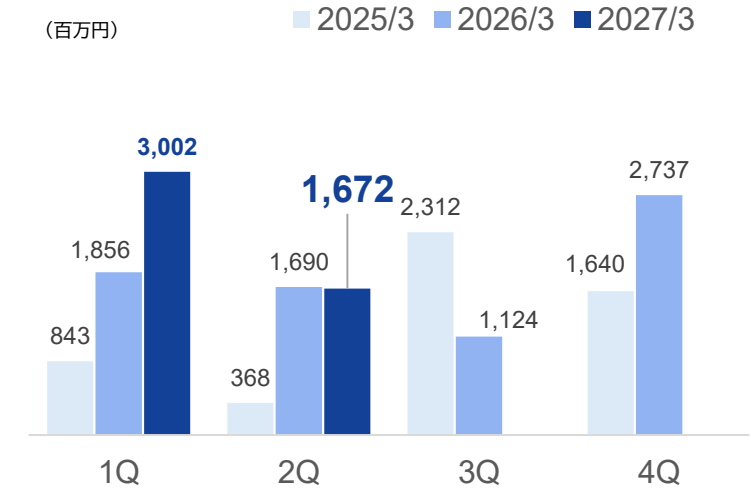
売上高



EBITDA



親会社株主に帰属する四半期純利益



Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

連結損益計算書

（単位：百万円）		2026年3月期 第2四半期　実績	2027年3月期 第2四半期　実績	増減額	増減率（%）
売上高		142,230	145,808	3,577	2.5%
売上原価		122,110	122,172	61	0.1%
売上総利益		20,119	23,635	3,515	17.5%
販管費		12,936	13,265	329	2.5%
営業利益		7,182	10,369	3,186	44.4%
	利益率	5.1%	7.1%	–	–
経常利益		7,257	10,353	3,096	42.7%
	利益率	5.1%	7.1%	–	–
親会社株主に帰属する中間純利益		3,547	4,675	1,127	31.8%
	利益率	2.5%	3.2%	–	–
EBITDA		11,916	15,544	3,628	30.4%

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

計画進捗

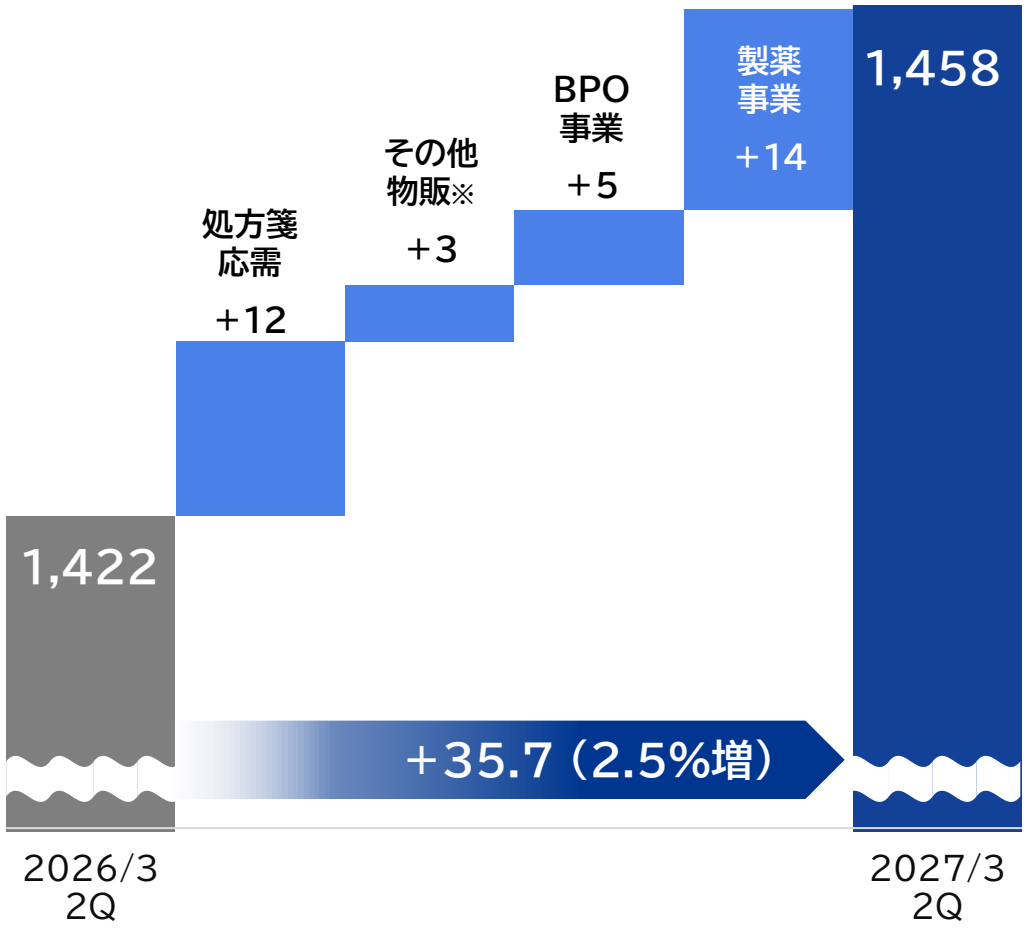
（単位：百万円）

	2027年3月期 第2四半期 実績	2027年3月期 第2四半期（累計）計画	進捗率	2027年3月期 通期計画	進捗率
売上高	145,808	149,500	97.5%	315,000	46.3%
EBITDA	15,544	13,700	113.5%	28,700	54.2%
営業利益	10,369	8,400	123.4%	16,500	62.8%
経常利益	10,353	8,400	123.3%	16,500	62.7%
親会社株主に帰属する中間純利益	4,675	4,100	114.0%	7,800	59.9%
1株当たり中間純利益（円）	125.54	109.11	115.1%	209.45	59.9%

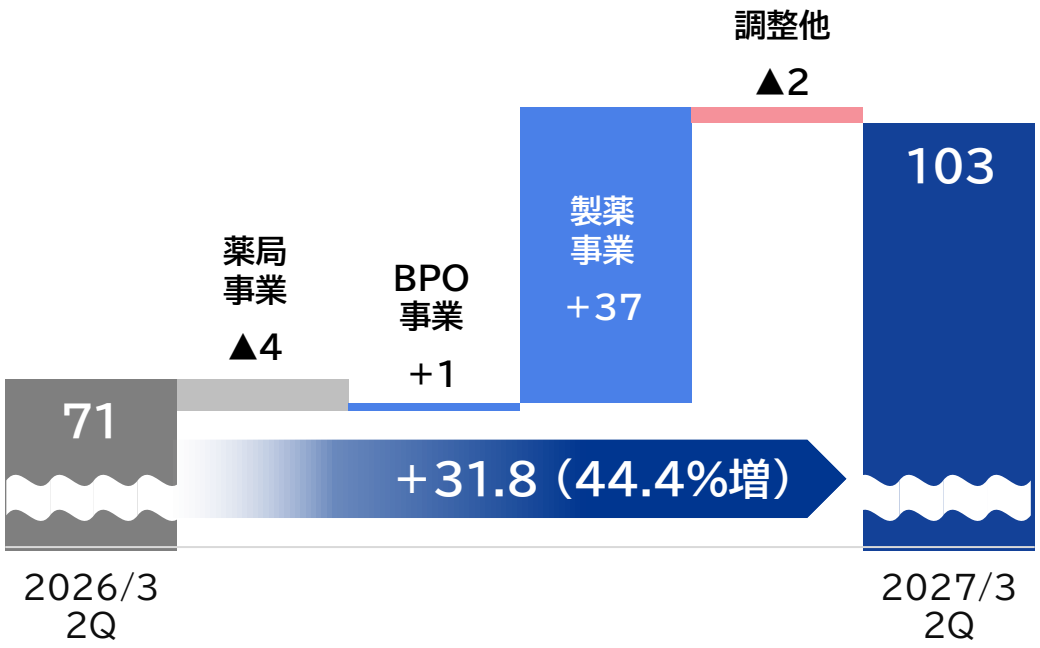
Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

増減要因（前年同期比）

売上高（億円）



営業利益（億円）



※OTC販売、ローソン店舗物販等

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

連結貸借対照表

（単位：百万円）	2026.3.31	2026.9.30	増減額
流動資産	59,277	63,850	4,572
現金及び預金	21,401	20,651	△750
固定資産	98,838	95,519	△3,319
有形固定資産	17,801	17,823	21
無形固定資産	69,962	66,489	△3,473
投資その他の資産	11,074	11,206	131
資産合計	158,116	159,369	1,252
流動負債	76,134	77,267	1,132
固定負債	22,141	20,637	△1,504
負債合計	98,276	97,904	△371
有利子負債	37,675	36,298	△1,377
純資産	59,840	61,464	1,624
自己資本	57,452	59,073	1,620
負債純資産合計	158,116	159,369	1,252

（単位：百万円）

流動資産	+4,572
受取手形、売掛金及び契約資産	+2,559
商品及び製品	+1,666
固定資産	△3,319
のれん	△1,896
営業権	△1,302
流動負債	+1,132
短期借入金	+1,000
固定負債	△1,504
長期借入金	△1,753
純資産	+1,624
利益剰余金	+3,660
自己株式	△2,030

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

キャッシュフロー計算書

（単位：百万円）	2026年3月期 第2四半期　実績	2027年3月期 第2四半期　実績
営業活動による キャッシュ・フロー	6,186	6,751
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,017	△1,893
フリーC/F	5,168	4,858
財務活動による キャッシュ・フロー	△13,683	△5,611
うち配当金の支払額	△640	△1,013
現金・現金同等物の 増減額	△8,515	△753
現金・現金同等物の 期首残高	26,378	20,988
現金・現金同等物の 期末残高	17,863	20,235

（単位：百万円）

営業活動によるキャッシュフロー	**+565**
税金等調整前中間純利益	+2,938
減価償却費	+433
棚卸資産の増減額（△は増加）	△1,124
売上債権の増減額（△は増加）	+2,284
投資活動によるキャッシュフロー	**△876**
有形固定資産の取得による支出	△279
無形固定資産の取得による支出	△293
財務活動によるキャッシュフロー	**+8,072**
長期借入金の返済による支出	+4
長期借入れによる収入	+2,052
自己株式の取得による支出	△1,816

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

セグメント概況

（単位：百万円）

		2026年3月期 第2四半期 実績	2027年3月期 第2四半期 実績	前年同期比 増減率
薬局事業	薬局事業売上高	86,734	88,357	1.9%
	セグメント利益	4,052	3,609	△10.9%
	利益率	4.7%	4.1%	–
BPO事業	BPO事業売上高	7,053	7,582	7.5%
	セグメント利益	1,002	1,139	13.7%
	利益率	14.2%	15.0%	–
製薬事業	製薬事業売上高	48,443	49,867	2.9%
	セグメント利益	4,042	7,750	91.7%
	利益率	8.3%	15.5%	–

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

セグメント推移

増収減益

- 地域支援・医薬品供給対応体制加算等の取得が進み、処方箋単価が上昇したことや介護保険売上が増加したことで売上高は微増
- 一方で、処方期間の長期化や自然災害等による受付回数の減少及びベースアップ等に伴う人件費の増加により、営業利益は減少

（単位：百万円）	2026年3月期 第2四半期 実績	2027年3月期 第2四半期 実績	増減率
売上高	86,734	88,357	1.9%
セグメント利益	4,052	3,609	△10.9%

主な増減要因

2026年3月期 第2四半期 実績

- 薬価改定（4月）
- 調剤報酬の一部見直し（4月）
  - DX加算要件の厳格化

2027年3月期 第2四半期 実績

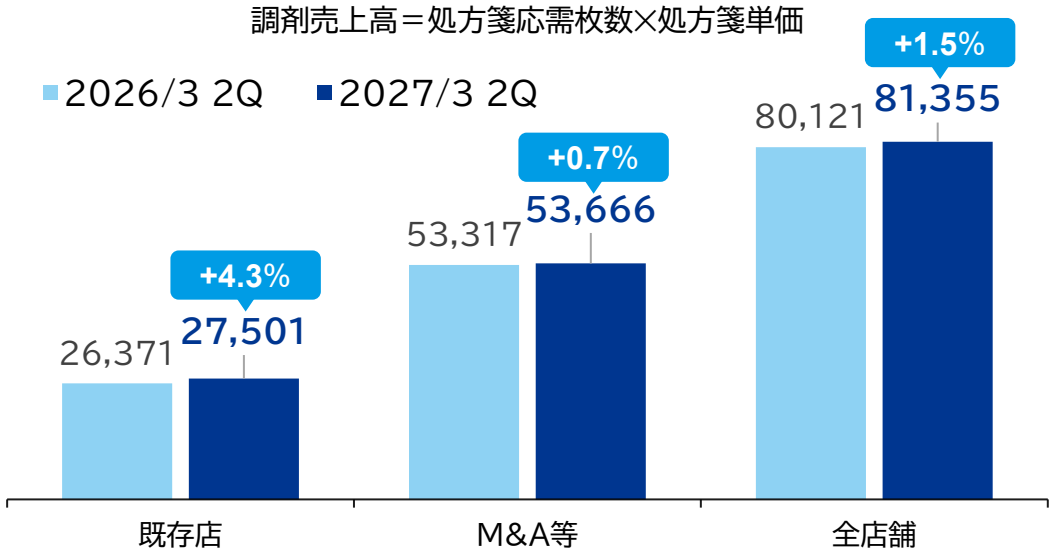
- 薬価改定（4月）
- 調剤報酬改定（6月）
  主な変更点
  ①調剤基本料の見直し
  ②GE加算と地域支援体制加算の統合
- 選定療養制度の見直し（6月）
  - 後発医薬品使用促進

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

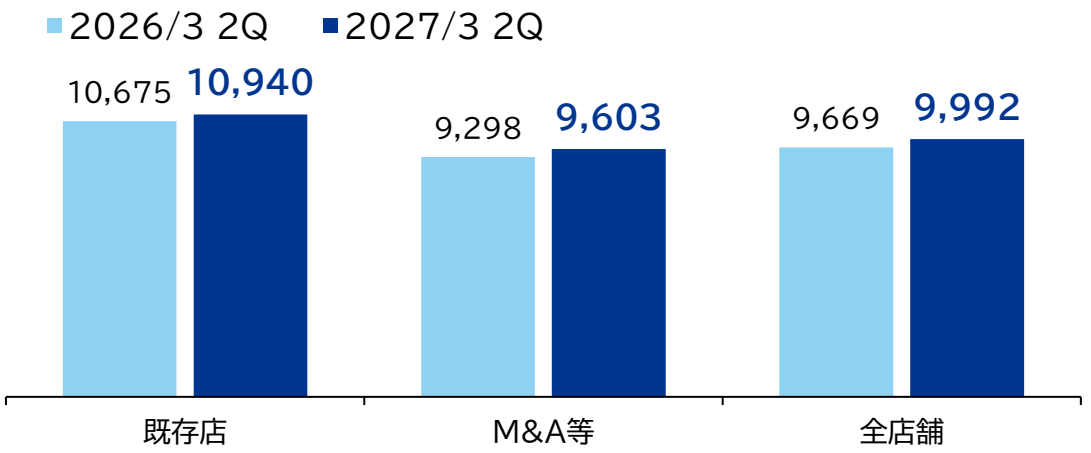
売上高内訳

調剤売上高(百万円)

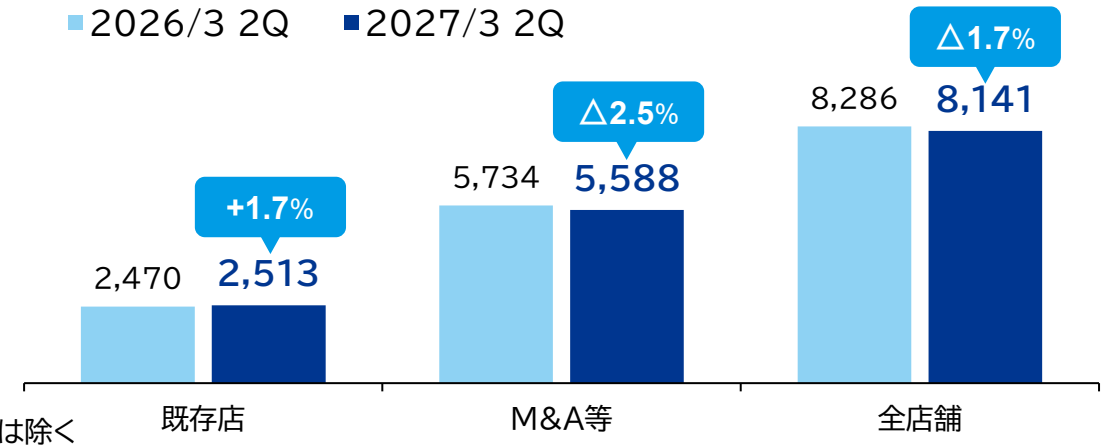
調剤売上高＝処方箋応需枚数×処方箋単価



処方箋単価(円)



処方箋応需枚数(千枚)



※新店は除く

処方箋応需枚数減少の背景

- ✓ 処方期間の長期化
- ✓ 全国の2025年度処方箋枚数が前年割れ※
- ✓ 自然災害

※厚生労働省 令和7年度版 調剤医療費(電算処理分)の動向より

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

下期施策①　処方箋応需枚数の増加

地域に根差した店舗網の拡充で、より多くの患者さまの健康を支える

戦略的ドミナント出店

全国
975店舗
（2026年11月5日時点）



出店数の推移

	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3（11/5現在）
新店	18	19	10	9
M&A	17	26	9	20

・名古屋エリアのドミナント強化（2026年8月）

愛知県内に3店舗を展開する株式会社MH2がグループ入り

・仙台エリアのドミナント強化（2026年10月）

宮城県内を中心に17店舗を展開する
株式会社メディカメンテ・株式会社MYがグループ入り





株式会社メディカメンテが展開する、やまとまち四丁目薬局（宮城県仙台市 写真左）と
卸町駅前薬局（宮城県仙台市 写真右）

下期の処方箋応需傾向

✓ **処方箋応需は例年下期に偏重**

（感染症の流行、花粉症、寒冷による慢性疾患の悪化などによる）

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

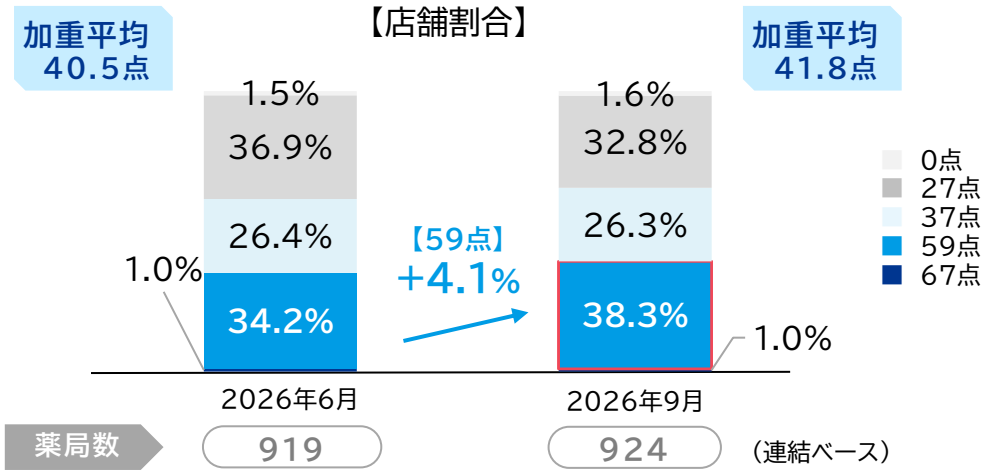
下期施策②　処方箋単価の上昇

より多くの患者さまに質の高い医療を提供できる体制を構築

かかりつけ機能・在宅医療体制の一層の強化を通じて、地域医療の中核拠点としてのプレゼンス向上を図る



地域支援・医薬品供給対応体制加算



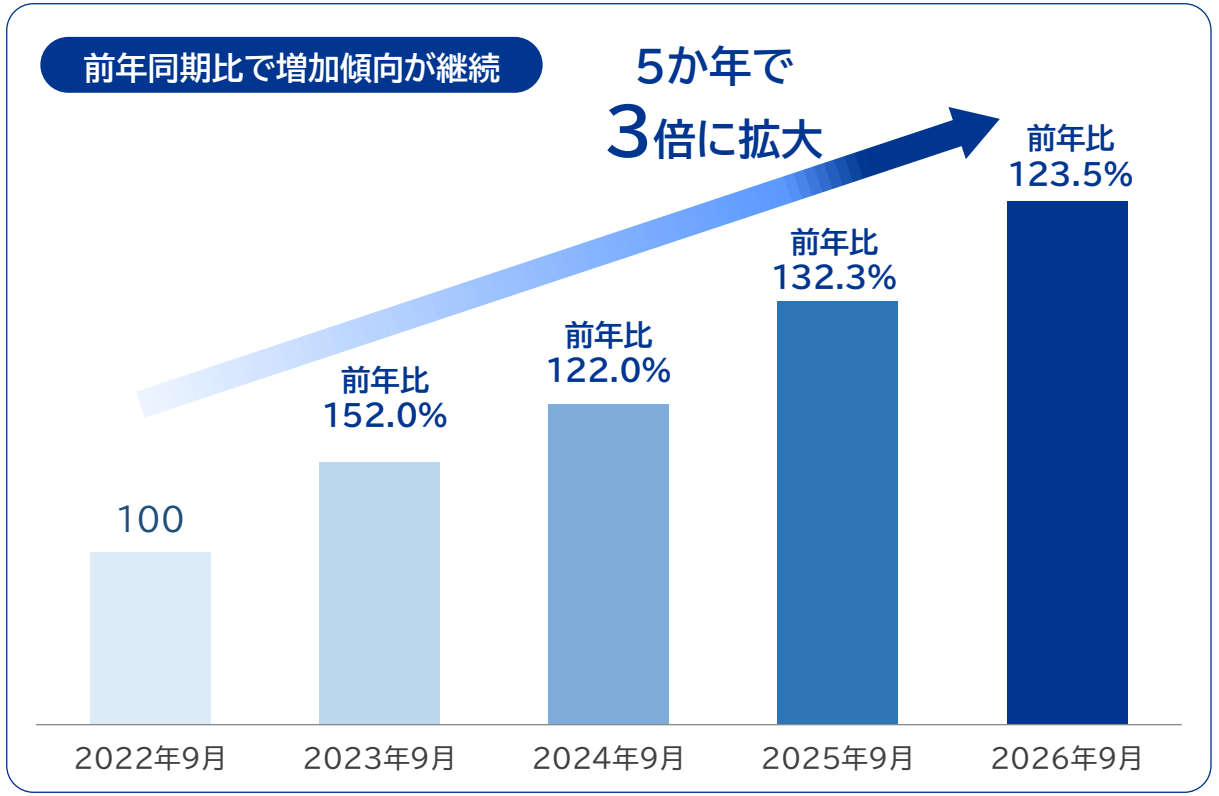
- 調剤報酬改定を踏まえた体制強化により、より質の高い医療提供体制が計画を上回るペースで整備

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

在宅医療の取り組み

年々高まる在宅医療へのニーズを支える体制を、下期も引き続き拡充

在宅医療関連受付回数の推移（2022年9月を100とした場合　前年同期比）



※クオール株式会社の実績

クオール独自の高付加価値な在宅医療を提供



在宅医療の提供基盤強化

- 在宅専門薬局
- 調剤ミス防止システム
- 訪問体制・在庫管理の整備



医療・生活をつなぐ連携強化

- 介護医療連携会の開催
- 医療機関・多職種との連携強化
- ローソン移動販売車との協業



服薬の安全性向上

- 服薬支援ロボットの導入
- 服薬管理アプリの開発・提供
- 大手介護施設への導入実績

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

DXによる生産性向上

薬局DXを推進し、生産性向上を目指す

さらに多くの患者さまへ医療を提供できる体制を強化

・自動処方箋受付機
・LINE処方箋受付

受付の省人化
待ち時間の短縮

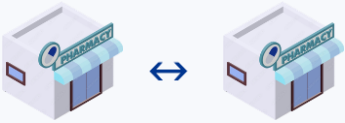


LINE処方箋受付
導入済

約900店舗

・処方箋遠隔入力

遠隔で店舗同士をつなぎ
閑散時間を有効活用



運用実績

約100店舗

・薬歴作成支援

AIによる薬歴作成支援
や自動音声入力



薬歴作成時間

約15%削減

・LINEによる来局後フォロー

再来率(リピート率)向上に寄与

来局後のフォロー連絡を
自動化し、継続的な
服薬支援につなげる



新患再来率

約20%向上

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

BPO事業

セグメント推移

増収増益

CSO事業において、派遣MR活用ニーズは依然として堅調に推移しており、派遣数が増加

（単位：百万円）

	2026年3月期 第2四半期 実績	2027年3月期 第2四半期 実績	増減率（%）
売上高	7,053	7,582	7.5%
セグメント利益	1,002	1,139	13.7%

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

BPO事業の内訳及び増収要因

・CSO(MR派遣)/CROが前年比で2ケタ増収し、BPO事業の成長を牽引

BPO事業の内訳



CSO(MR派遣)／CRO※

高付加価値なMR派遣/
医薬品・食品等の開発業務受託

セグメント内売上割合　約60%



医療系人材紹介派遣

薬剤師や保健師等の
医療系人材を紹介・派遣

セグメント内売上割合　約30%



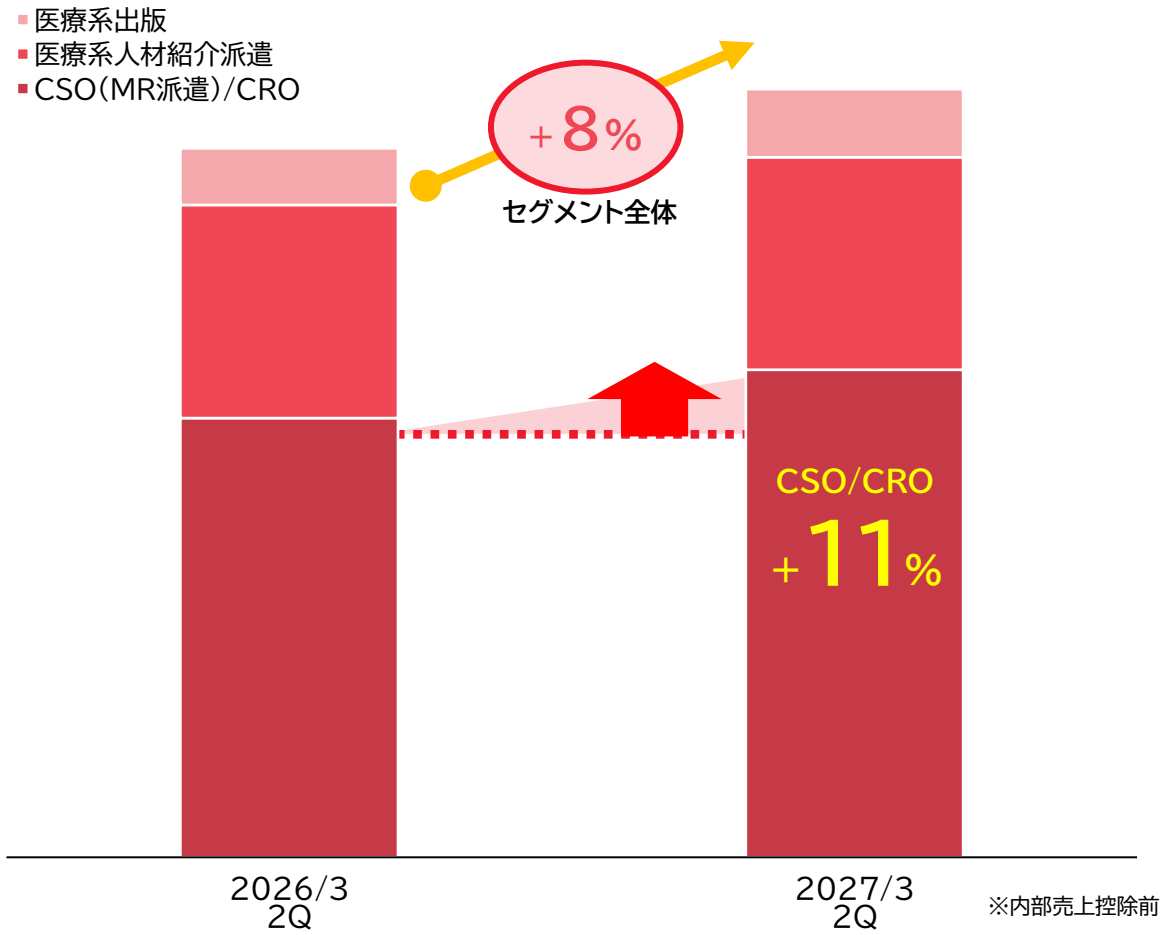
医療系出版関連

医療・医薬情報資材の
企画制作及び出版

セグメント内売上割合　約10%

※ CRO事業:臨床試験支援

売上高



※内部売上控除前

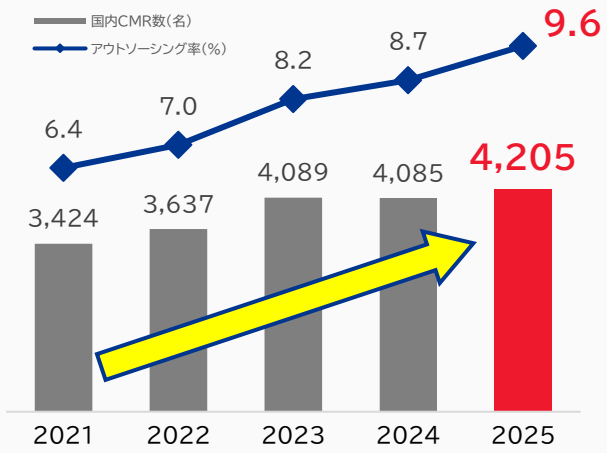
Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

CSO事業がBPO事業の業績を牽引（アポプラスステーション）

日本のCSO市場拡大を追い風に、専門性を強みとして事業成長を加速

01 市場環境
拡大するCSO市場

国内市場は、過去最大 規模へ

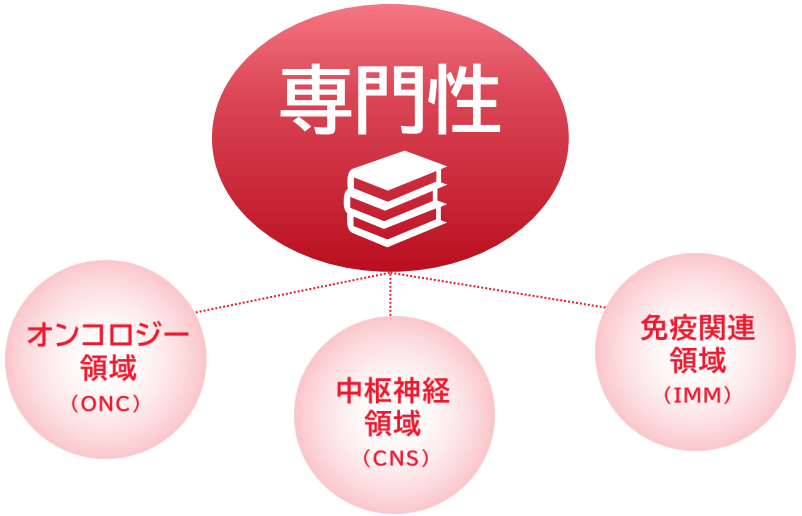


市場成長余地

欧米と比較して日本のCSO活用は拡大余地が大きく、更なる市場成長が期待される

※出典 日本CSO協会「「わが国のCSO事業に関する実態調査」の概要 -2025年度-」

02 当社の強み
専門性の追求による差別化



専門性の深化 ▶ 高付加価値MR人財 ▶ 製薬企業からの評価向上

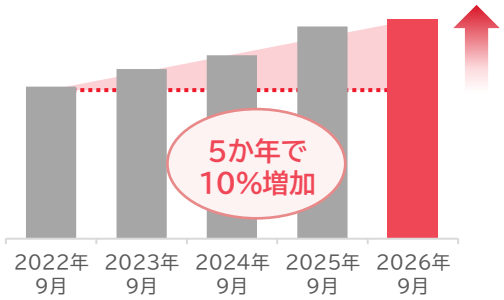
03 成果
市場成長を上回る受注拡大

質の向上

✓ 派遣単価の改善

量の向上

✓ 派遣MR数の増加



パイプラインの向上

✓ 取引社数の増加

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

医療系人材の紹介事業に注力（アポプラスキャリア）

社会的ニーズに応える事業領域で事業成長

01 市場環境 医療系人材の偏在



市場成長余地

地方部働き手不足→医療系人材も不足
→医療アクセスの不均衡が社会課題に

※出典 中央社会保険医療協議会 総会（第631回）議事次第 総－2調剤について（その2）

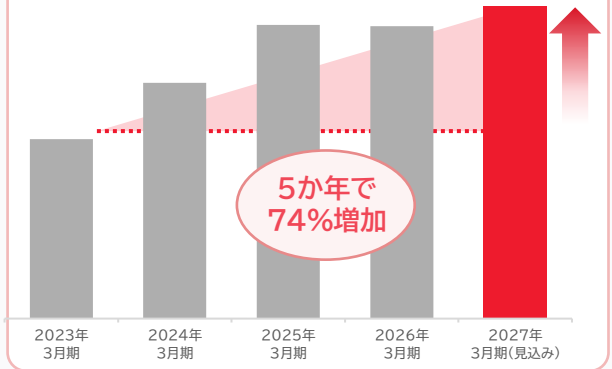
02 当社の強み 幅広い業種をカバー



全国約10拠点の
きめ細かな支援
▶
求職者・企業双方のニーズを
捉えた最適なマッチング

03 成果 順調に紹介売上が拡大

✓ 紹介売上の増加



※2027年通期実績は2026年9月時点見込み

更なる収益性向上に向けて

- ✓ 高利益率の紹介事業へリソース集中
- ✓ AI活用による生産性向上

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

製薬事業

セグメント推移

増収増益

2026年3月期に発売した2成分5品目及び当中間連結会計期間に発売した2成分3品目が大きく寄与し、既存品の原価低減も実現

（単位：百万円）	2026年3月期 第2四半期 実績	2027年3月期 第2四半期 実績	増減率
売上高	48,443	49,867	2.9%
セグメント利益	4,042	7,750	91.7%

主な増減要因

- 薬価改定（4月）
- 第一三共エスファ株式保有割合増加（4月：51%→80%）

- 薬価改定（4月）
- 新製品発売数：2成分
  （AG1成分、2026年6月発売
  GE1成分、2026年7月発売）
- 選定療養制度の見直し（6月）
  後発医薬品使用促進

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

第一三共エスファの収益性の向上

①製品構成の変化による収益性の向上及び②原価低減策

要因①
製品構成の変化による収益性の向上

- リバーロキサバン
（直接経口抗凝固薬　2024年12月発売）
- プラスグレル
（抗血小板薬　2026年3月発売）
- ビラスチン
（アレルギー性疾患治療薬　2026年6月発売）

要因②
原価低減策の実施

既存品の原価を低減

	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	前年同期比 増減額(率)
売上高	474 億円	491 億円	+17 億円 (+3.7%)
営業利益	40 億円	85 億円	+44 億円 (+108.4%)

※連結消去・連結調整は除く

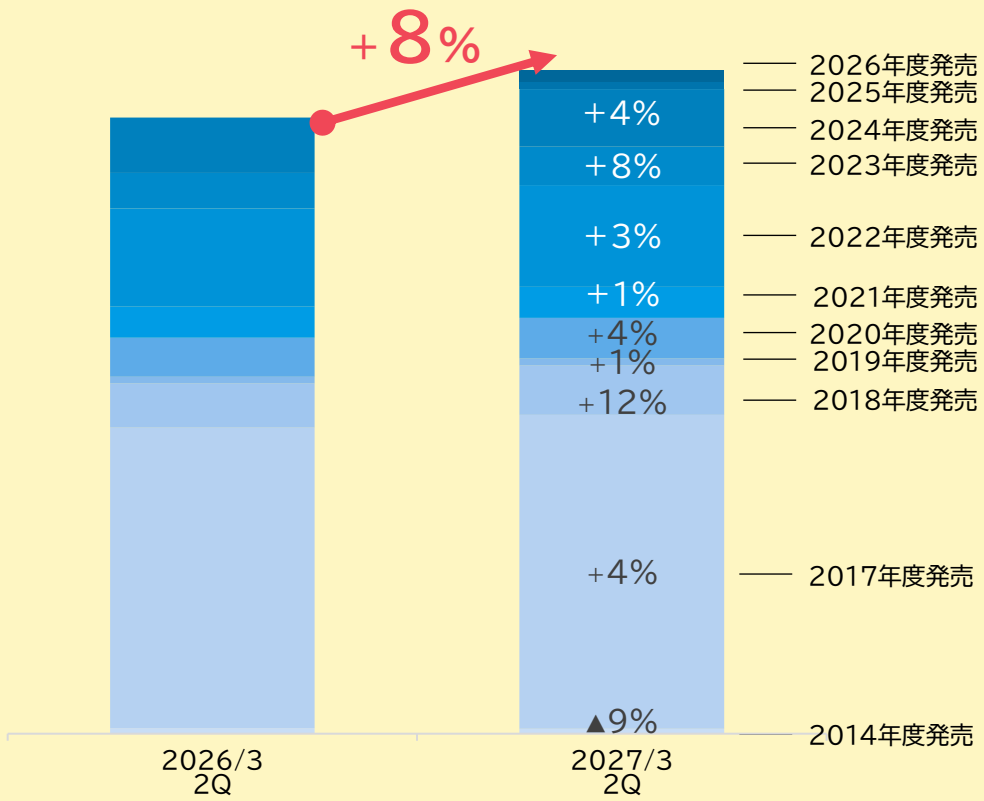
Copyright © QoL Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

収載年度別出荷数量

既存AGの出荷数量※は伸長 （前年同期比＋8%）

既存AG製品　出荷数量※推移

※医療機関等（病院、薬局）へ出荷した医薬品数量



発売年度	一般名	主な使用用途
2014年度	レボフロキサシン	抗菌剤
2017年度	テルミサルタン テルミサルタン/アムロジピン テルミサルタン/ヒドロクロロチアジド オルメサルタン ロスバスタチン	降圧剤 降圧剤 降圧剤 降圧剤 高コレステロール血症治療剤
2018年度	レボフロキサシン点滴 シロドシン ゲフィチニブ	抗菌剤 排尿障害改善薬 抗がん剤
2019年度	ビカルタミド アナストロゾール タモキシフェン	抗がん剤 抗がん剤 抗がん剤
2020年度	メマンチン塩酸塩 エゼチミブ	アルツハイマー型認知症治療剤 高コレステロール血症治療剤
2021年度	ボルテゾミブ カルベジロール ピルシカイニド塩酸塩	抗がん剤 慢性心不全治療剤 不整脈治療剤
2022年度	アゾセミド フェブキソスタット	利尿剤 高尿酸血症治療剤
2023年度	ビソプロロールフマル酸塩	降圧剤
2024年度	リバーロキサバン ロキソプロフェンNa テープ ヒドロキシクロロキン 硫酸塩	選択的直接作用型 第Xa因子阻害剤（経口抗凝固薬） 経皮吸収型鎮痛 抗炎症剤 免疫調整剤
2025年度	プラスグレル錠 アビラテロン酢酸エステル錠	抗血小板剤 前立腺癌治療剤（CYP17阻害剤）
2026年度	ビラスチン	アレルギー性疾患治療剤

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

新製品の発売

バイオ医薬品を販売予定
患者さまの治療の選択肢を広げ、医療の持続性に貢献

バイオシミラー

1成分2品目
サムチュンダン製薬（韓国）と日本における独占販売及び供給契約を締結

先行品名	製品名	薬 効
アイリーア®硝子体内注射液 40mg/mL アイリーア®硝子体内注射用キット 40mg/mL	アフリベルセプトBS硝子体内注射液40mg/mL「SCD」 アフリベルセプトBS硝子体内注射用キット40mg/mL「SCD」	眼科用VEGF阻害剤

藤永製薬（製造販売承認取得）×第一三共エスファ（流通・プロモーション） シナジーを活かした製品展開

1成分1品目　2026年11月発売予定

GE



先発品名	製品名	薬 効
ノルレボ®錠1.5mg	レボノルゲストレル錠1.5mg「フジナガ」	緊急避妊剤

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

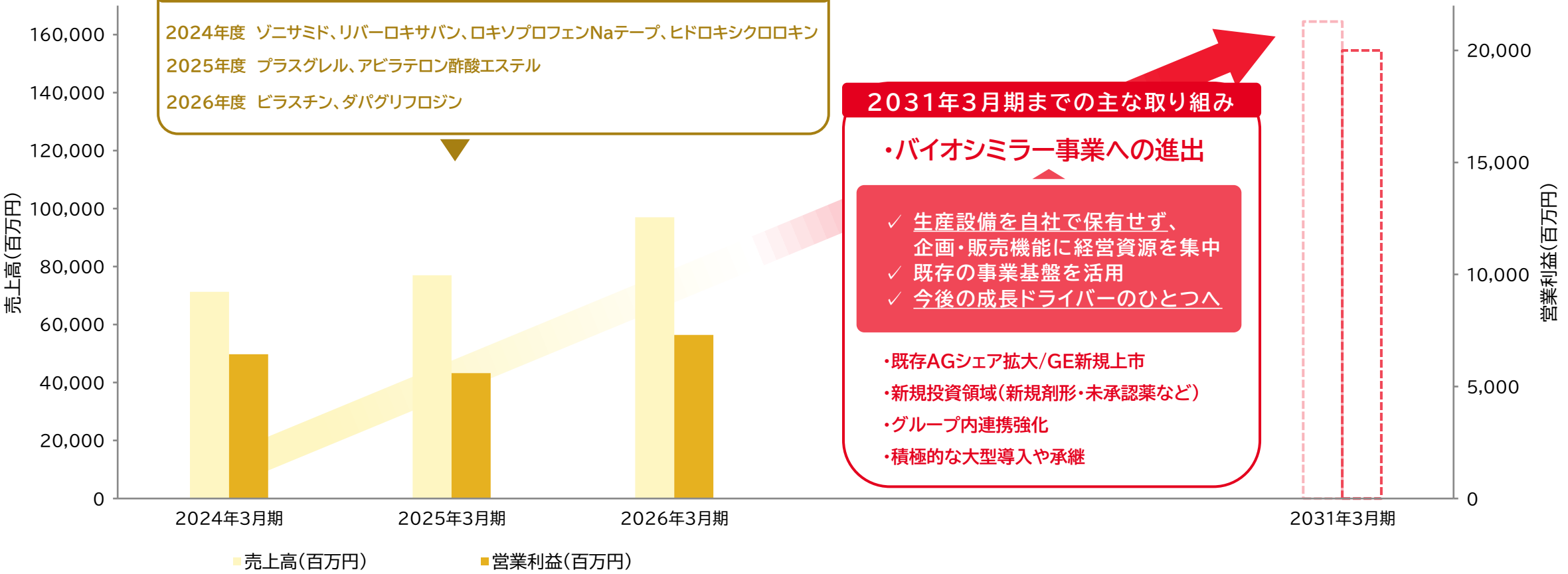
第一三共エスファ　収益推移

クオールグループ参画後も持続的成長を実現

中期経営計画達成へ向けて積極的な成長投資を実施していく

安定的な新製品パイプラインにより毎年上市を実現

2024年度　ゾニサミド、リバーロキサバン、ロキソプロフェンNaテープ、ヒドロキシクロロキン
2025年度　プラスグレル、アビラテロン酢酸エステル
2026年度　ビラスチン、ダパグリフロジン



2031年3月期までの主な取り組み

・バイオシミラー事業への進出

✓ 生産設備を自社で保有せず、企画・販売機能に経営資源を集中
✓ 既存の事業基盤を活用
✓ 今後の成長ドライバーのひとつへ

・既存AGシェア拡大/GE新規上市
・新規投資領域(新規剤形・未承認薬など)
・グループ内連携強化
・積極的な大型導入や承継

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

グループの全体像と強み

総合ヘルスケアカンパニー

薬剤師
4,000名超

MR
800名超

薬局事業

BPO事業

製薬事業

切れ目のない医療をグループ一気通貫で提供

研究開発



製造



販売



病院薬局



患者さま



医療に集中特化した「総合力」

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

「ハッピーローソンタウン」構想への参画

コンビニエンスストアと薬局が協業し、医療・健康・生活を一体的に支える地域拠点を出店

ハッピーローソンタウン×クオール薬局

ハッピーローソンタウン構想 × クオール

店舗がコミュニティのハブとなり、世代を超えた
人々のリアルなつながりを創出することでマチの再創生を目指す構想

集合住宅型1号店に参画

（2026年9月）
高幡台団地（東京都日野市）に薬局※をオープン



オープン初日の様子



（集合住宅のイメージ図）

※ハッピーローソンタウンクオール薬局日野高幡台店

クオールが考える　協業の意義

①より身近な健康支援の拡充

②高齢化への対応

③デジタル活用による利便性向上

④災害時・緊急時に地域を支える拠点機能の向上



コンビニ併設薬局の様子
（ナチュラルローソンクオール薬局城山トラストタワー店）

従来からの
ローソンとの協業店舗数

全国
51店舗
（2026年11月5日時点）

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

株主還元方針・配当

好調な業績進捗と財務状況を踏まえ、成長投資を継続しつつ**株主還元の強化**を決定

年間増配額を拡大

1株当たり 54円 ▸ **64円**（予想）

中間配当を期初予想より1株当たり5円増配した32円

期末配当を期初予想より1株当たり5円増配した32円

（前期比 +14円）

（円）	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期
中間	15	17	23	32
期末	15	17	27	32（予想）
年間合計（前期比）	30（±0）	34（+4）	50（+16）	64（+14）
配当性向（%）	22.9	24.6	25.3	―

当社の株主還元方針

累進配当

前期を下回らない安定的な配当

配当性向

2031年3月期に向け、30%超の早期達成を目指す

資本配分

成長投資・財務健全性・株主還元のバランスを考慮

Copyright © Qol Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

【IRお問い合わせ】

クオールホールディングス株式会社　広報部

TEL：03-6430-9060

FAX：03-5405-9012

E-mail：ir@qol-net.co.jp

お問い合わせページ：https://www.qolhd.co.jp/inquiry/

【免責事項】
本資料および参考資料の内容につきましては、株主・投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料に将来に対する見通しが含まれている場合がありますが、実際の業績は様々な要素により、これら見通しと大きく異なる結果となりうることがあり、確約や保証を与えるものではありませんのでご了承ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する決定は、株主・投資家の皆さまのご判断において行われますようお願いいたします。



あなたの、いちばん近くにある安心